



ILEC理事会

資料番号 3

2024年度活動報告

2025年3月10日

(公財) 国際湖沼環境委員会

理事長 竹本和彦

副理事長 中村正久

報告事項

I ILEC活動中期計画の策定

II WLD制定に係る取組

Ⅲ-1 科学的知見の集約

Ⅲ-2 科学委員会活動の推進

Ⅲ-3 国際協力の推進

(1) SLM－Weekの開催

(2) マレーシアPESSVA導入事業

Ⅲ-4 人材育成および普及啓発：

(1) JICA-ILEC課題別研修

(2) ポスト課題別研修に向けての検討

(3) 環境省インドネシア湖沼水質改善技術協力事業

○ 地域社会貢献活動

I. ILEC活動中期計画(2025-2030) の策定

～「世界湖沼の日」の国連決議を契機として～

湖沼が危機に直面していることを受け、第5回国連環境総会（UNEA5）で「持続可能な湖沼管理（SLM）」の決議が採択された。

2024年12月の第79回国連総会で「世界湖沼の日（WLD）」を8月27日に指定するとともに国連関係機関や加盟国、関係ステークホルダーにWLDを記念して、湖沼管理の重要性に関する教育や環境保全活動の推進を奨励する決議が満場一致で採択された。

WLDは、湖沼管理の意識を高め、持続可能な湖沼流域管理に向けた活動を促進する機会となり、関係者が一致協力するプラットフォームとなる。



これまでILECはSLM推進にあたり、湖沼流域の統合的管理（ILBM）を推進してきた。今後は、この考えを基に、湖沼・静水域と流域の一体的管理を可能にする「**統合的静水・動水流域管理**」（**ILLBM**）の基本的アプローチを国際社会に浸透させ、更なる国際貢献に繋げていく。

こうした取組の計画的実施を目指し、今後5年間の活動展開を視野に中期計画を定める。

I. ILEC活動中期計画(2025-2030) の策定

ILEC活動中期計画(2025-2030) 骨子(案)

1 科学的知見の集約

ILLBMの基本的な考え方の一層の進化を図り、国際協力プロジェクトを通じた湖沼を含む河川・沿岸流域システムにおける事例を分析することにより、科学的知見の集約を図るとともに国際社会における浸透を図っていく。とりわけ、国際政策の枠組みにおいてSLMを主流化させることを目指す。

2 国際協力の推進

世界湖沼会議の効果的な開催を継続する。また、各国政府や地域コミュニティ、民間セクターと連携し、SLM実現に向けた協力プロジェクトの立ち上げを支援する。特に、開発途上国における湖沼の水質改善や持続可能な水資源利用のための技術支援を強化し、国際協力を推進する。

3 人材育成・能力向上

JICAとも連携し、引き続き、途上国の湖沼流域管理のリーダー育成を目的とした研修を実施し、人材育成・能力開発活動を推進する。また、次世代の水環境リーダー育成に向け、オンライン研修や国際ワークショップなどの環境教育プログラムに取り組む。

4 普及啓発事業

「世界湖沼の日」を通じて湖沼管理の重要性を広め、国際的な啓発活動を推進する。滋賀県や教育機関と連携し、国際的なユースネットワーク形成を通じ、次世代のリーダー育成を支援する。また、地域社会の活性化に貢献し、若者の環境保全活動の国際発信を促進する。

Ⅱ WLD制定に係る取組

(1) WLD制定に向けたILECの取組

1 第10回世界水フォーラム（R6.5.20-24 インドネシア・バリ）

閣僚宣言（5.24）： ハイレベルパネル終了後の閣僚級会議で「世界湖沼の日」制定の推進を含む提案を採択

ハイレベルパネル13（5.21）：中村副理事長が竹本理事長代理として挨拶。
「WLC19バトン宣言でWLDの制定が全会一致で支持されたこと」

スペシャルセッション11（5.23）：中村副理事長の基調講演

2 世界湖沼デーに係るハイレベル特別イベントin NY（R6.9.24）

竹本理事長がハイレベルスピーチ（ビデオスピーチ）

「世界湖沼デーは象徴に加え国際行動をモビライズするプラットフォーム」



「世界湖沼の日」決議（79回国連総会R7.12.12）の主な内容

- 1 **8月27日**を「**世界湖沼の日（World Lake Day）**」として制定すること。
- 2 各国や国際機関が湖沼の重要性を認識し、協働して湖沼及び関連する生態系を持続可能な形で維持・保全・再生すること。
- 3 「世界湖沼の日」の事務局は国連環境計画（UNEP）が担うこと。
- 4 必要な経費は各国官民の自発的な拠出によること。
- 5 国連事務総長は関連国連機関に「世界湖沼の日」の順守を通知すること。

国連プレスリリース：<https://press.un.org/en/2024/ga12668.doc.htm>

Ⅱ WLD制定に係る取組

(2) 制定記念特設Webページの新設

祝！ 国連記念日「世界湖沼の日」制定

- 竹本和彦ILEC理事長よりメッセージ
「世界湖沼の日 ― 私たちの湖を守るためのグローバルな誓い」

国際湖沼環境委員会（ILEC）は、「世界湖沼の日」の国連総会決議採択を祝福し、その制定に尽力したインドネシア政府へ敬意を表します。湖沼は貴重な淡水資源であり、気候変動や都市化による危機に対処するには国際協力が不可欠です。「世界湖沼の日」を通じ、持続可能な湖沼管理への意識向上と国際的な連携を強化し、具体的な行動を推進する決意を表明します。ILECは引き続き、湖沼の保全と管理に取り組んでいきます。

- 「世界湖沼の日」決議案の主な内容
- 「世界湖沼の日」制定に向けたILECの取組
- 世界湖沼会議の歩み



<https://www.ilec.or.jp/wld/>

Ⅲ-1 科学的知見の集約

国際社会におけるILBM議論の推進

<活動の背景と経緯>

- 世界の28湖沼の分析（2003-2005）に基づくGreen Bookの策定とILBM概念の構築
- ILBMプロジェクトの推進に伴う情報資源の更新とDRRなど新たな課題

<2024年度の業務推進>

- Green Bookの情報更新とILBM研修教材（E-Learning）の改訂
- 統合的静水・流水流域管理（ILLBM*）テンプレートの開発研究の開始
- WLC20におけるILLBMアプローチの必要性の課題提起に向けた応用事例解析の実施

<2025年度以降の活動に向けた準備活動>

- UNEPとGreen Book改訂の国際連携プロジェクト推進
- ILBMをLake-focused IWRMとして国連水会議へ提案

* 湖沼を治水・利水・環境のガバナンスを統合的向上を目指す新たな解析アプローチ

Ⅲ-2 科学委員会活動の推進

- SLM-Week期間中の科学委員の活動
 - 科学委員長、副委員長他 3 名の科学委員を招聘しSLMウィークのプログラムに参加。
 - 出席メンバー間でGBを含むILBM教材のアップデート、科学委員主導のEラーニングコースについての検討
- 第15期科学委員体制に向けて
 - 退任委員の補充と強化地域への増員を念頭に新規委員を推薦
 - 旧委員のレガシー維持のためのフェロー制度、プロジェクトベースで個人や組織との協力体制強化のためのアソシエイト制度の制定
- WLC21開催候補地の選定
 - ウェブサイト上で公募し、5つの候補地から提出されたプロポーザルを基に公平、透明性、評価基準を明確にできるスコア様式を採用して決定する。
- 湖沼管理ガイドラインシリーズの改訂検討
 - Walter、Maxを中心に、SILと連携したオープンアクセスの書籍としての発行を検討
- 個々の科学委員の活動
 - Lennie副委員長が2月に「GLEON 2025All Hands' Meeting」にILEC代表として出席。湖沼管理者と科学者をつなぐプラットフォームにおいて湖沼管理ワーキンググループに参加



Ⅲ-3 国際協力の推進

(1) 「SLM-Week」の開催

グローバルユースと考える持続可能な湖沼管理 SLM Week

(2024年度日本万国博覧会記念基金事業)

○ グローバルユースワークショップ

日 時： 9月25～27日（3日間）

開催場所： 琵琶湖博物館別館、琵琶湖淀川流域

主な参加者：グローバルユース（オーストラリア、ハンガリー、フィリピン、メキシコ、ウガンダから各1名、日本から11名）、コーディネーター（山本理事、Stephanie Smith）、ILEC科学委員（Walter委員長、Lennie副委員長、Alejandro委員、Ajit委員、清水委員）、講師（同志社大学 原田准教授）

- 琵琶湖淀川流域における湖沼環境保全の取組を体験し、各国の湖沼流域での活動事例を共有し合い、ユースによる湖沼環境保全への貢献と具体的なアクションについてILEC科学委員らとともに議論を行った。



Ⅲ-3 国際協力の推進

(1) 「SLM-Week」の開催

○ SLMフォーラム 持続可能な湖沼管理の推進：共に創る未来

日時：9月28日（土）

開催場所：琵琶湖博物館別館 主催：ILEC

参加人数：135人 20か国（現地39人、オンライン96人）



➤ 国際パネルディスカッション 『湖沼は持続可能か？』

「Source-to-Sea」のアプローチ、「世界湖沼の日」の意義、次世代のための社会的取組の3点を踏まえた討論を展開

パネリスト：インゲ・レトノワティ（インドネシア環境林業省）、工藤 里恵（環境省水・大気環境局 海域環境対策推進官）、山本 直矢（滋賀県琵琶湖保全再生課長）、セルジオ・アントニオ・シルバ（グアナファト大学名誉教授）、デイビッド・ハミルトン（グリフィス大学 Australian Rivers Institute 所長）、パトリック・ムアイ（UNEP）、小玉 恵（たねや CLUB HARIE執行役員経営本部本部長）、ウォルター・ラスト（ILEC科学委員長）

➤ 円卓会議 『グローバルユースと考える持続可能な湖沼管理～WLC20に向けて』

ユースの活動を集約するオンラインプラットフォーム「Lakes for Life」の立ち上げ、グローバルアクション「世界湖沼の日」キャンペーンの実施を発表



Ⅲ-3 国際協力の推進

(2) マレーシアPESSVA導入事業

○ マレーシアにおける住民の生態系サービス価値共有評価（PESSVA）の導入 〔地球環境基金助成事業：2022－2024年〕

8月4-9日 プトラジャヤ・コーポレーション、セランゴール水管理局、国立水利研究所（NAHRIM）、エネルギー移行・水資源変革省関係者5名を招聘し、プトラジャヤ湖および Langat川流域でのPESSVA調査実施に向けたワークショップを実施

2月18-21日 マレーシア対象湖沼関係者へのPESSVA調査結果の報告を実施。ネパールから湖沼保全関係者2名を招聘し、次年度以降のPESSVAプロジェクトについて協議を実施

○ WLC20開催準備会合

7月 オーストラリア・ブリスベン
現地ホストのグリフィス大学、運営会社ASN Events社との事前協議の他、現地視察、会場等の確認



Ⅲ-4 人材育成及び普及啓発

(1) JICA-ILEC 課題別研修

「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」コース〔JICA受託事業〕

Stage 1 (2024年11月18日～12月10日) リモート研修

Stage 2 (2025年1月14日～2月18日) 来日研修

- ・ スリランカ、バングラデシュ、ニカラグア、エルサルバドルから4名の研修員が参加。
- ・ JICA長期留学生1名（エチオピア）オブザーバー参加



Ⅲ-4 人材育成及び普及啓発

(2) ポスト課題別研修に向けての検討

検討のキーポイント

- JICA研修事業の成果を最大限に活用し、湖沼プロジェクト実施国における長期的な支援体制の構築を目指す
- これまでの湖沼に限定した取組から湖沼を含めた流域全体の管理へ

○ JICA地球環境部との協議を開始

日 時： 2025年1月10日

参加者： JICA地球環境部（自然環境グループ・水資源グループ・環境管理課）

協議内容： 湖沼・流域管理に関する課題の共有

2025年度ILEC活動への支援要請

（拠点地域調査、世界湖沼会議等への参加、新規課題別研修案件形成）

○ 対象国拠点地域調査を検討

対象調査国：インド、ネパール

Ⅲ-4 人材育成及び普及啓発

(3) 環境省インドネシア湖沼水質改善技術協力事業

「インドネシアにおける湖沼水質改善のための技術協力業務」

〔環境省受託事業：2021－2024年（4年目）〕

日 時：2024年11月6-15日

参 加 者：インドネシア環境林業省及び中部ジャワ州行政官7人

業務内容：茨城県・霞ヶ浦と滋賀県・琵琶湖で面源負荷削減、排水処理等にかかる研修、今後の施策展開についてディスカッションを実施



地域社会貢献活動

JICA 地域理解プログラム

「琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓」に協力

日時：2025年1月23日、24日

会場：23日 琵琶湖博物館別館、アクア琵琶

24日 琵琶湖疎水、蹴上浄水場、蹴上発電所、水路閣

対応：中村副理事長、市木テクニカルアドバイザー、清水評議員



第5回 びわ湖まるっと親子セミナー

～目田川からびわ湖を考えよう・河川クリーンチャレンジ！～

日時：2024年10月27日

会場：守山市立図書館および目田川河川公園

主催：近畿労働金庫、ILEC

共催：びわこ豊穰の郷

協力：堀場アドバンスドテクノ

